

## 第2章 食育推進の基本理念

## 《基本理念》 信州の食でつながる、人づくり・地域づくり

本県は、県民の平均寿命、高齢者の就業率、医療費の低さ等において、全国的にトップクラスにあることから、健康長寿県として注目されています。しかし、高齢化の進行、ライフスタイルや家庭状況等の変化に伴い、若い世代の朝食欠食や野菜の摂取不足、働き盛り世代の生活習慣病や高齢者の低栄養の増加などが食生活での課題となっています。

さらに新型コロナウイルス感染症の流行は世界規模に拡大し、その影響は私たちの生活、行動、意識、価値観にまで波及しました。テレワークの増加や外出の自粛等により在宅時間が一時的に増すことで、自宅で食事を摂る機会が増えた一方、規則正しい食生活のリズムや食事の栄養バランスが崩れているなどの課題もあり、食の重要性が改めて認識されています。

一方で、子どもの食をめぐることは、家族が共に食事をする共食の機会が減り、これまで家庭の中で引き継がれてきた食事の大切さ、マナー、食べ方、食文化などが次世代に伝わりにくくなってきています。特に、共食によりコミュニケーションを図ることは、食の楽しさを実感し、食習慣やマナーなどを習得する機会となりますが、家庭の状況が多様化している現状を踏まえると、家庭だけでなく学校やこども食堂など地域の場を活用し、共食の機会を設けて食の大切さを伝えていくことが必要です。

また、生産者など食に関わる人や、動植物の命をいただいているということへの感謝の念を深めるためには、多くの関係者により食が支えられていることを理解する必要があります。そして、近年、各地で異常気象に伴う自然災害が頻発する等、気候変動の影響が顕著化しており、食の在り方を考える上でも、脱炭素社会の構築に向けた取組を推進することが必要です。食料供給や食品そのものの安全性をはじめ、生産から消費、廃棄に至るまでの一連の食の循環を意識しながら、地産地消やバランスのとれた食事などの様々な体験活動を通じて、一人ひとりが主体的に食育を実践していくことが求められています。

これらの食育の実践を子どもから高齢者まで途切れることなく進めるためには、多様な関係者の連携・協働のもとに、広い視野に立った一貫性のある取組を継続的に展開していく必要があります。

長野県では、食育推進計画策定時から、食育を「人づくり」であると位置づけ、健康長寿という身体的な側面と人間形成という精神的な側面から取り組んできました。

今回の第4次計画においては、これまでの取組と現在の食を取り巻く様々な状況を踏まえ、生涯にわたり健全な心身を培い、ゆたかな人間性を育むことを掲げる「人づくり」に引き続き力を入れるとともに、「地域づくり」では、持続可能な開発目標（SDGs）の視点を加え、誰一人取り残さない温かくゆたかな社会の実現を目指し、地域で支える食育推進の仕組みづくりを進めていきます。

本計画では、基本理念を「信州の食でつながる、人づくり・地域づくり」として掲げ、「若い世代への食育」「世界一の健康長寿を目指す食育」「食の循環と地域の食を意識した食育」「信州の食を育む環境づくり」の4つの基本分野を設定し、目指す姿の実現に向け、県民、関係機関・団体及び県が食育を推進していきます。

【図1】 基本理念と基本分野の関係

## 《基本理念》 信州の食でつながる、人づくり・地域づくり

### 人づくり

生涯にわたり健全な心身を培いゆたかな人間性を育む

#### 第1節

#### 若い世代への食育

妊産婦に対する働きかけや、乳幼児から基本的な生活習慣を身に付け、食を通じて家族等とのコミュニケーションを図ることにより、ゆたかな人間性を育みます。

多様な暮らしに対応し、家庭、学校・保育所等地域の各段階において、切れ目なく、生涯を通じた心身の健康を支える食育を推進します。

#### 第2節

#### 世界一の健康長寿を目指す食育

健康長寿を目指す観点から、ライフステージに応じて、生涯にわたり、自分の体の状況にあった望ましい食生活を実践します。

生活習慣病やフレイル、低栄養の予防や改善を図るため、地域や職域等の連携と協力による食育を推進します。

#### 第3節

#### 食の循環と地域の食を 意識した食育

食を通じて人と人との交流を深めるとともに、地域の食を次世代に伝え、郷土への理解を深めます。

#### 第4節

#### 信州の食を育む環境づくり

食品の安全を基盤にし、食育を推進します。

食育に関心を持ち、食に関する様々な実践活動や体験等の場に参加します。

### 地域づくり

誰一人取り残さない、地域で支える食育推進の仕組みづくり

## SDGs（持続可能な開発目標）とは

2015年9月の国連サミットで採択され、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール（目標）と169のターゲット（具体的目標）から構成され、誰一人取り残さない社会の実現を目指しています。

また、日本では「SDGsアクションプラン2023」（令和5年3月SDGs推進本部）の「健康・長寿の達成」の中に食育の推進を位置付けています。

